

【オレンジコラム第13号】

テーマ「軽度認知障害」

アルツハイマーと認知症の違いは何ですか？という質問を患者さんや患者さん御家族からたびたび頂きます。“アルツハイマー病”は一つの病気の名前で、“認知症”は何らかの原因で脳の働きが悪くなって生活に支障を来している状態をあらわす言葉です。その“何らかの原因”の一つがアルツハイマー病という病気で、現在はアルツハイマー病が認知症の原因の6割と考えられています。

もの忘れなどの症状が出始めたけれどまだ生活に支障のない状態を軽度認知障害といいます。いわゆる予備軍です。アルツハイマー病の症状が出現したばかりの人は軽度認知障害の場合が多く、進行してしまうと認知症になってしまいます。

抗アミロイドβ抗体薬であるレカネマブ(商品名レケンビ)というアルツハイマー病の新しい治療薬が2023年9月に承認され同年12月から保険適用開始、さらにドナネマブ(商品名ケサンラ)が2024年9月に承認され同年11月に保険適用開始となりました。兵庫中央病院でも2024年4月から抗アミロイドβ抗体薬によるアルツハイマー病の治療を開始しています。

アルツハイマー病の初期の方ほど良い効果が得られる可能性が高いと考えられ、認知症になってしまう前に、つまりアルツハイマー病になってしまったけれどもまだ軽度認知障害のうちに治療を開始することが重要です。もの忘れなどの認知機能の低下が気になれば早めにかかりつけ医や地域包括支援センターなどの専門機関への御相談をお勧めいたします。

国立病院機構 兵庫中央病院 認知症疾患医療センター長 山崎 浩 氏
兵庫県三田市大原1314 TEL:079-563-2121(代表)

もの忘れ外来(認知症疾患鑑別外来)
毎週水・木曜日13:00～16:00 完全予約制
(受診を希望される方は、かかりつけ医の先生による診療情報提供書が必要です)

